門へ13
部1703
巻2

清水物語下向

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さまぶり、わさうかの歳つもりの業
あらひ百年のよはひをもつもれるうの
わいるぶへ、ゆくべきにされば、まさに
まことに、世はよりの何ちに付くるつ
まなり五車の書をよみ人も知らず
みく後そのこゝろをきはめ詩歌つくり文をう
きし人も白こゝ筆をとりえんまの帳
にそなへ後ゝ名ばかりの自然天も詩を
ばうり文をうきしと詩をうがんきれよの
わやまりとくやこゝて三仏業乃えんとことは
がつれしてまぶらの物あり世の事にしたがひ

こゝよりハ世のなすきにあらず
を祈りまいらへ仏法ハ三ゝを五常しる
ぬ事をかゝりくきしらへ、まつ元信と之
ぬハ元をとのこゝろをとゞむくする事
なり。世よりくゝを重もわれひくまん
ともわれ千万人の主元となる主人をなり
の後ハ友もなり。ひとりむまれくゝゆく。
君もなく信下もなきみちよあるまゝ。わと
をとゝもゝぬ物ひるれも元信のたゝりてつ
のよえさなり。親とるハ一世ちきり。なに来
ありやとゝつくきもれなし。世のうをれもてゝ

形ぞ。箱の蓋よりとりける。箱はとしえんよりあ
くまやとりひろといふ子ハ三うひのくひうせなり。
母やとのみちを法くくくも世のうあかまさ
形ぞまま婦の中ことを海ひたねるれぞん
ひろくくもんもま婦のわるふりくことお
これがひのうねとなりもすぞ三うえん
中よぶいれ物へよく法ほうあうとも。風。海
さくくこうひのきえぬうちことのこなれ
きえこの波ハいくせんぞなりさよれれて
あるあ波形ひうあへとすくやうり　ちあり
まふとく法海ふくくひとしぞこもすくと

川とまうぞあもなくてうくれるまうれとの
よいうり来世のしも形ひひとてもおすあも
ゆくみち形くもことこ
えぬうきりそさ世のすく形うあ命くへ海
とうまうくぞのちまあふとくにおりくゆん
と思ぞあとくくちへくことゆあ風ふま
うあふあよのりてハゆさはうぬちあよ法ここの
みぞとうりぬへ三綱五常のみち風ふれな
ぞ来世ようき半ありとうもそれまうて中こつ
うぬちまようにとうぬへ。三綱五常さへに
さゆりあくんぞ来世ハちくこもわれと法くこもわ

まあ、孫あまをもしたいらつさて孫子屋
まをもとるーぽきをこうしてゆりて
人もいまうぎきうすぽ
ねいへぼつえんぼのみちすくてひまを、月もた
ちかうーぽ君臣とゝ上下のみち信をさぶむる
るあり。上下の位すくゝうりそめまんつきわしす
ぽーのまつゝとわしのしのひさのゝ
あゝーぽのようあひ姫でうるゝーぽ上下ぬまの
ちゝて人のみちハさのしまも親子ぬちな
くゝ者をぎまれよ姫ーぽのわゝしれハあや
ゝまにゝてあまぽいのちをもそゝもちをとゝ

のゝ姫も孫よりゝとゝにをるあさ人もぽ孫
ぬゝあゝと姫ハよあゝすあやぽ月をゝんまくゝもうむ
月とはゝあぐまんをすすてゝ神よりのりせし
ゝおやのゝあ形ゝすやぽゝ姫ゝきゝ
ゝとすくゝゝゝあゝゝゝ人ゝゝそぽすく産
あゝ姫ゝていんやぽ家ゝ形ゝる時よぎをん
ゝうゝいゝとあんゝ形ゝゝゝせられゝばゝんハ形や
のゝをんをもすてゝゝゝ孫ゝりぽゝうゝ
りゝ形ゝるくちのゝトゝりぽみゝりのいゝ
形ゝゝ格ゝられもゝせゝきゝゝ人ハ親ゝ
又姫目ゝりきゝぽものゝゝん形ゝみゝゝく母親

はるかに人のひろめるはじめとおぼゆるさ
わらとひとりもわとしぬるすぐれもいろうと
ほうえうぞうのみちはなくてもよかり
むかし思ふ事もありしかども仏といふこと
そもそもいつも人のるはれあるすやふうのみち
はるかに八百年五十きのうちすいわ家もすくさひ
家もかるくなりぬすくうきもやしうなく
ろ仏法ありてもかみうらせんぜひよ人なく
八宗風聞あるうくく五こくしられうあん
あるひ人ありともうれわ家のみちよ入あん
ぬとほくうもうこうりもれなくてぞやうん

地獄を祈るあくは僧のはもちゆうこのもちは
まぢかもうもうこと地ふすいは木の葉やこうもを
きるへきぞうじせうはりあるくまゐのみちをも
はるとうはひてもおくぬはるくはこなるへし
天地をゆうふのもうりうくはこまさ
月夜どうぶはどさうそれこまこうあ乃乃
うう地獄せひこうはは海ふとうりうりや
上人もうはるくうはうくぞ葉方はかみうるぬ
ぐちの人おく海ぞうしいふものなりぞあるの
仏うなる人こばう法の法のはこうてむきんちご
ゆうり地ちぐうそりのせめはるけたこうり

めぐらすべきなり。佛はなほ母をみ
ずして傷りたまふやうにとぶらひ
奉れば　けまぢ老たる
みちをよくえらびうしなふこと
しきやうもんにはごとくせんともこうしの
つまぐせいのあうもいつりぬやうにどくうして来
世有ハうすうの事ハ
ときくこもろくのかりなぬぢ無れやうの佛こと
ぬくして耳をぬきくしたるへしとわこれ
わさ御しとめ走りぬ御ふりかりおもや
す　如のくうのもくぬ御ふりかりおもや

連絡をもしり方ちうの理の常
うの中ハ人理の常
を御半ハのくしぬ方ちの里伝られしをぬぐ
をる云葉をてこことしへ除ハやえ中さしぬつ孫
ぬちうしけうありしをもつ佛ぬ地ぬさられし
男をもてくぬもうよ姫ちく仏ぬくこことしの御ち
わりくくるこ我う事ぬ我ぬ事しの御ち式ぬ心ち御ぬ
つまて佛よありしぬとぬぐるこうくろぬとく二川
しくしぬぬ二りりとぬ佛せちくく一心ちしさやう文
まちりしぬ我ぬ佛ちくしちく佛よりて
もくるこ我ちけしぬぬ仏ちしてれる一心ぬま
さくるこをうこ事ちて佛よりとも如よ

うせんぴつ、あうてひくいしゃ、仏ほうの母橘
手紙をうけとりてうれしがり僧をくやしがるもいと
せられしが、これハこれ金銀米穀ハなくいやかも
も米をしゆもの重宝ハ
ひをすてゝ来世の橘とまつぬめくいもいぶかへ
いこのよれすきいひをいとぬもけらいいて指
も家をろうんとう心指よういるり上人こゝをみても
あるぬんと世ゆえていぶつらふかもてもをかも思
ひあいあ思ハ思ハ思ハ思ハ
いひしるに指すぞれもも情のこいきとう指
ひ方ひ手をもすうハ身をわけられよ思と

もらをいるれハ的のまをあり思ハ形ひもも
日ろ手前分もちよこそうひもれるひハ
色ぶあさにようれもけきあふくれろ指ろ仏の
ほく的よのてんと思ふとも多あわくハし川
主ひへ世ふくれ手前ふしようくひしけきハ
もろ主ひろ仏さもひ卵ともひ命への手
前れようろ人ハいたなるへしたるに手前
とをてく理屈をもまきろへを夜盗ハ世を孫
うんハ的をあうこて手ふあれりきがあとくな
前へ首よ一ひもあうるハいるへうひ世の
さそうれちびひうれ形ひ孫世もまれ

りんと上人あそばいさうらへ　上人いよ〳〵腹
とすへうゆゑ〳〵真方の屋うなる人どもらあん
そうのもれさもいふべいはぜんさいのゆんうも云
ゆりぶゆゑあるきれ悪人をもしも悪のをびき
すべ仏とさにもんうすまも現世わんもと
く苦災難とのうまいぶ心安さそいむひのらくよか
うう仏ようはあてびいのつまて仕合よく彼も
ひうへ菓世めくハ七宝もうそうあんのまのき極楽
もとしゆくうり光を二世安楽しゆ一助りゆ命とひ
今をうて飛ひうるうう人すてもぶゆいをを
彼へ八念仏をとせしゆうるゆりて善人た

ゆ心あれみちと地こうるつけどもの事も仏
の方便り浦ゆせ西逝ちそうをれず西災
法ハ大庭のもと解ぶらくのゆうりゆのゆうるを
ゆ　れこぶるくぶ
仏のもしも人と浦ゆせうゆゆゆゆゆゆ
今のゆゆせ八日れう浦ゆゆゆゆゆゆ
仏をもんうすれもようゆの災難を乃れ
ゆとうけうゆりぶれ傍ゆゆ仏のらふ
て　ゆん災難とのうまゆゆ一刀きりく
きうれうゆもぬうこう浦ゆ　ゆゆゆ八念仏
彼ゆこうるゆ　ゆくうるれゆゆ

いへ。ぬしはいとまもなくて。かよはせたまへ。僧
まうさまゐらせられ。ぬし。ぬしたうもる
ぬりかはすがあるべき。のりのるべきこと。
御くしをろしたまへ。こそかいなきれ。鳥えり
をはなちわたりわく。鳥いだしけれよりもしく
女人わりなれもの人。とくいもくだしけれど
きどくなりぎもいと。女車いあはしとやなき
車うれしいと。老人きいてのきれ。霧わくをも
いへ。ぬしとせも。鶴のうち。雄も併よなり
ぬしとく思いくまれきされ石のひけをだうを
ん。すきてあるうにわきあるとやせも。

神も仏もなく。天乃乃も。ものぐるしく
ぬみして。ぬしとに。御ぬまぎれいぬふ
てもいとすのきみくも。いとすとやせしぬ。
雑りといるものみてすとまひときこえいぬ。
きんとすれもしろうぬ。ぬしとやさし
くの人のいろうもひとすこいれ物語ひ
しるるつれ。ぬ。みれつぎ。ぬどくなり少へよ
きてきどくもぬ。ぬぎともいつ。ぬまもの。
見すれうるまい。ぬ。ぬぎふなすさとぬひみれ
立ぬ。ぬ。ぬれもきどく。ぬ。ぬとと思人車ぬ
くいぬ。其子細ぬるれ。ぬ。ぬどぬぬぎぬくいぬ

ゝやうのものはきこうみゆるもの
こしもとも
めのくこそ
めづらかなるものは
ぎれ
の水
の花
よ
ユ
これ
も
すべて
わ
と思ひ
ても
ゆ
ぎ
ぬ
ぬ
ぬ

亘那ゝ[illegible]ひ面もそ[illegible]ぷ[illegible]ゝ[illegible]ひきゝ[illegible]ゝ大
聖人とのゝ[illegible]れい人と[illegible]ぷ大悪人とゝ[illegible]ゝさゝれい
人ぷ生れつき何ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

そこきよ紙がみとく物おとにそこくらゐの
こゝろやうよ世こゝろ好くこゝろひよ海ぐハ
すぐりれきおの清やくこゝろ悪こゝろま
清ぶ重つ色くみえくもくこゝろかつきゆうこと
ち色をくしまのこゝろ後きこゝろ見ちひよ
形ゝ色事をさ人よ海ゝせくあこゝ藝能な
どにすぐれゝ道ものゝとゝもそれゝて
世ゝ見ゝ道者よ規模ある色ゝかひゝす人の
こゝをそぐてゝまゝかんよゝこゝよすへき事よ悪こ
色ゝ悪人の上中下ゝ善悪ゝ賢不肖ゝ紙
ゝ色ゝ人ゝ人ゝ人ゝ其ゝ中ゝ色ゝ人

よ世ゝゝ道形ゝゝ色ゝ人ゝ色ゝ人ゝ色ゝ人ゝ色ゝ人
色なりゝ世ゝ色ゝ世ゝ世ゝ世

そこ於ていしく思ひ煩ひくるしみ
城郭ハ不ト成ト功ヲ者ハ敵国ノ
ようぶんをする者よりうつよく心ぜつ
天をも人をもうらみかこつ
なくまどふなり事ハ日こよりはのりく大
人となれり命ぜしめ人もいとつまづき
而て未代よりはさゆる事ハ百余年の間
ドにくもらむる事ハ城ぐて又四日程ハ
まれつきの人がの間へ
や答曰これも一念の深とよりゆく
過ふ人よすぐれてようくさと

ふ事もやはりんとか
けつるゆくこすつるリハ
をうそむるぬと敷久
りをもつれん人まで天下ふ
すを山のゆくまてもくれ
くもつづ事天下のちを
まぐちをあもちひく山の
をすりゆきを大道とをうく
文王聖人ようハ物をを
をづうみ面まゆりく
人の大ん人をくまへて

ゆへよ。八百年の天下を治ひろめ給ひ。其外
薪をとり。月日を一年をとゝ。若我心猶の
こまりて。聖賢の代代あらうもいでてのきこ
と我ゆへこなりの世志をもさいもくゝ海
くゆへくくるんくくうてゐたりと給ひ山人
よ。のるひ八六百年よりを空百年。西来れ法ら弘
く法さりす志の代まりても聖人といひく多
うちこあつくまもかきうる。これ八一念の海こ
せうりゆこれるよりのうすや。弘明るも天下知
志さちハ十ちと法ろ。ンなり。四方りるの人ハ
こあくぬハ形をれとも。一念の遠てる而あるゆ。

十三

ひさくゆさゆりうるゆまれなり。又回曰。然ハ
こゐ大人の事也。神妙。ときれ若も神ゆり下
なりち志ハ知ゆをれりもぐへなり人をすく形し
賢人とまりく色を其弟ずゆりもを
りひうう。是ハうくしてくしや答曰。ほどく
ゆちを志をくゆ海を取るへ。ゆき知をとゆや
のゆ形ゆものゆりのをかりて合ゆり記
事をりくまりうもち牛ゆ。ゆち志れあうま
者なりも礼をりうゆ人ようゆ川の弟我
りうへ。礼とりへをかゆの礼すもりのうす。日中れ
礼ゆもありひさりゆれ中ごを志弟我礼と云

十四

ぬるかぎりのなかにゆゑあるかたちにて
ものしたまふ昔やうの世の人
くらのきはにてはとしたかくこうつくしう
ありくはかくこなすくしさかりはかうりてしたれる
なりのぞいたまへるはいとあてやかなる人を
ちかくまゐりよりてこのいへにはたて
これはきとあるひとくはたいたく
はかなきもののさまにてはべるなりけ
りときくてはかりのいとまめやかに
もちひねるまもなくはべるなりけ
りまうしたまへるはいとせて
人のはきはりてぬるぬぎ

ちとくしあすくいとあ
きとくはるてはりくせんや答曰年はよりこの
人ようかのへーと問曰多大毛ぬるくしはく
答曰ようき人のけうあるはんにはけうはくこな
りませくはれは年よはせくちをとかくてま
をあつてはとくとはりはのは
と十分よ我ひとりをゆるすへうはぐ
分よぜんをはこうおとくはさぐけをすあ武
士はへはすぐれくすむへーそれも功りは名
をげて嬉よ分ちりそくはは天のみちなすあへ。
馬退とるあつまりてかりけりはは

八千里とよこはるるのりときくぞまれも千里と
くはるる一さかりや月〳〵に千里の路ちんとつきて
もこゑたらんぞく人よこそなりたへられとゝのへし一
人のりくるる千里は馬まれもとして千里のり
をゆくごがのりんやあくまぬーう思のふんつまう
猛こそのるくへ今れ千里のるのりとも乗き
なりあへーー其上千里の馬ハ海ぐさハ波くも
見くがつりき少へよるぬーう屋うかろ小男の
海くのハ形ぬときくそ思とまてその屋せるこ
そまーなりんとのふぞ又一人のりくるるりか
くるーー人もはそのりけき武士そつまう

地とはくのうへてよきたれのもちろはを重
寶なるへーーのりるぞどのりるぞと屋りん
いをりあくひよつまりくぬ人をもあぬさ
まあくほーうれいハ千里のるよあちん津を
むとりひくうかはのぞとりぬ中あき者の中あ
きあもなりまとかうはとの思のくぬ茶屋よ
勝うけこはの人のりるハあやまりも大なるわや
まりハああもくぬが公家かこよ宿とのりそ
ひぞひきはこは人ハるるきれぞーもうがなりうは宿
のあのくとうすぞてーも津とあぬ人このの
りんつはりもぞりあぬハ知津ーときくぞ武家の人

人よ軍礼をハかへきまりなしと国中に二人
二人ありもやまるんぢうこゝろぬとみえうる
人僧ぢうまいちりうぢ人ぢ一人二人ありを
やまるんぢんハ姫礼ぢりしあやまりハ幾千
万ぢや茶屋ぢ日ぢ相撲ハもるしもそれ
ちりちりきのやまりこそ人よ生れく人ぢ
ぢちりぬ人ハりくやしぢりんや其外ぢ一ハ
ぢりこりハ外よりぬ事ぢるへしとりぢ用と
ぢ試んあらせくかこりぬぢちりく茶
屋をおぢく渡りもときけも茶屋ぢあ
こゝろりさもれるりぢのぢもくぢれと

きりぢよりりくぢと絵へりく光陰を送ぢ
ぢるんぢき年りりぢ一人のりく物
りぢ時きりこそ儀三橋の花盛りみり人
ぢなくりやりぢんぢ花のりちぢ古来武
りてやりりぢんぢいち武勇の侍軍人
ぢりく年のりぢやりのりんぢよりぢ人よ言宮中
ぢすぢ一ぢりへなきぢ者よ言ぢりとするぢ
剣ぢ三光ぢりりぢれくぢぢ家ぢ武ぢみぢ
よりこぢりよりぢんぢあひの落絵ぢりの事ぢ
ぢよりぢんぢぢ一ぢりぢきハ侍よ西ぢ月
日きやりりくぢりぢれりりくぢのぢんきく

をすべ中よりぞくみ出す云ける人ハ第代年よ能
あまりにせんさくすぐれもまけもなきこと
よ形りも和なりそれ天ハまの形くしてほすす。
海がゆへよ天のまてそ地うつぬまま地の下に
ありぬ地のまてハ又天まりハ是かりハ天是うハ地
と云まりもれりきりハ地ハ天地も所よなり物まりハ人のちをもぜひ乃ちき
つまを云ぞ〜てぜんさく海りすぐれもくぐ
なり者と物りとはうるかりハ是ハうちみえ
ハ分別あるかりハ人よりとぬちをまりぞや
ちとりまれまりハ是のはりくめ物りくまりうち

をほんらと云まりハ是やらある人ハ國のまさハ
ひなりぐちかりくかりなりまりハ一さんひさ
あまとかりくかりまりの足まりとひよなる
形り
まりき人くくちつれくいひきりふ
此りの量りこよ三条の説まて年の比十七八し
かりなりまる一人と記ひすりさけりあの
こ三人とも名あひくかのさやありりまて
宣帝一三人のこ三人きられ二人もあけあり
まりき人の大さ柄りて方くりかりれ
五百貫人三百貫人なぞりぬりとりつ大名
ゆりとかりこ人のつれがりもそれもりくし

きゝ事にて物さうにはあらねども大名衆のか
しかられいこそ心ゆきなれ国中の人くいとれ
程のまゝなりまゝきと思ふそのまゝとりがら
れいやでそれ物ゝもちきやうゝもれどもいと屋
くまゝぬまれなりんがーみつまゝ用よ
あいまれなるゝは是程のまゝよめ城さ浦ぴ
きはり物いまりかゝれひこそこの能
しかゝねはよりくく嵐を描よくらいつきと大
き虎とくしの事ゝのうぐやうれまゝくよのも
まれといひがゝーー國のゝのゝのうぐれん人ぷ
国のえめくゝりとよゝ人のゝ能よなるゝき

人伝ゝのれ大ゝのうく俳諧もう城ゝ
めきゝとすゝ人ぷ西なゝ老ゝ乃者をこと
ゝゝゝゝまゝめん中まれ喧嘩の物ゝひ
ゝゝゝ者などゝひゝくゝゝゝめゝゝ心れゝゝ
とゝゝゝめゝく浦ゝすゝ物ゝひゝ喧嘩こ
のむ御ゝゝぷ千百人一日のゝちゝまゝのゝぬ
國乃物ゝゝぷゝきれ大ゝ八国を命ゝそまめ
まぷゝ儀ゝ物業ゝゝゝゝ世ゝ
物浦ゝきれまゝれとゝゝれゝゝゝゝ
ゝかゝゝみゝ命ゝ人ゝ一言ゝそもぷの人ゝゝ
ゝ物ゝ　一むまゝ物ゝ人ゝくゝくゝまひを

為ハ姉のきなる人の金銀をぬすうとをみるに何者よりかこの物者ハ物ましまぬとみく人のんぐ〜とまつるへしよ申なる人のことをうけ給はとそこれ人のうさうきうるめ人なあつれまの為くとりみとーをきて其人のくこれるトハまつるへしとうよ一人の曰さてーをなきまとこのむよ屋すきとれハうれうずあるむしまを屋とうよ一人の曰物ことをすむんまあき者ハ為いこれの心もまあと云又一人の曰ぐくもくもくむをとまけをなき人り物をあの人ハぐれ物ハいうれなすき物ハ

屋ーぐ屋とうよ一人のいくぐそーぐ屋るくよ為ひあらまくあ物をあ〜若ハそれ人ゑれこ者子とるまいうりうまもくすぐれう物うるうれうれと思ひのうれ云

遍服きるとも云

うのくきくゆうう

まあすう人の中よ為ぐうる人とみえてひうくうんまうハあいもうきあとうるる程心ひうまあもくそうるまれまうつあ為しあくまうきまの事一ハくぐうしとうんぐみもこれをそうと孔子孟子るとうとうきうれうあうこちうまれハ遍

服きぬ人さうもまも金ん銭の銭とかう
せんとのつる事如へ命ーとすてくらぶ銭と
かうせんと思へ心ぞ
を使うするお形うあぬ乃理ぞ志うぬ、それ
ろうなれ配すて場よめいどれ他とすぬと
こそもつあ記とうきて記とうゆう乃るれ
まぬあくいきれ用よ。ぬ事よ。ぬ事す。
仏のとへすも乱子れみちすもそのかう乗く
乃とへあとはなきしまうぬとかうせん
と物つ子孫よ使へむ二のちうせりを
使くてかうすへ。其上とん。とあ使くき

ぬ人が後ときうく乗とかうずぬ乃理
かうし親とくるとを乗れ物さいすぐ人の
子ハこれ遅服ときくんやぞ子ハ後を使ぐ歩へる
きくぬとこ人かうも。後を使うぬ子ハ皆さう
色きや服ゆく乗とかうずふ形うぬ乗よ
うこふい親のうあふ子の服きうこ後ハう。
乗つきぬ乃ぬあ乗後ハ後きう後乃理なす乗
ろうるうう。又乗こ乗ぬ如てもすうくきる
理すう。乗れ君こうと人し。ぬ下の上中下れ
乗こそあれ。つまてとうぐすく思ひ。ぬ乗
四乗ふ。命ーもあ。ぬとくまんぬんす

思ふ様なる事ぞ。酒くらひて寄せ合ひ
屋をきれ。千万の中よりぞ。ぬんぬ。ぬきてのあん二三人
あり。くぶり。ぶり。八郎をもきぶ。ぶ。ぶ。

平助が中絶寺まで服きりに付合ひさ
ぎとのくちもまてぬ人ぽんとうんすがよ
あとくらあらうかくの角ぐひ一筋ハそ一面き
半ーよりのすゑ。ゑもほとほめへとかさ
ゐぎをもも服きてそれつぬ一筋もりのんう。
四りのうかなすろ人ぽ栄の山縁ちうるあ祢ば
ひるるぺぺきをよ海ーいるんよりぺう祢とあ
くまくく山のかーよりをむすひをと色
ほらあ色うあうく心あるくりうきのと
ひつぺぺれの人ハ口ぽほせひとうあハ心ぺうそ
くひぺそれい無乳をちうきとの分別と。

色のらもあと無乳とあくにあ物うれと
もぺひとちうあ人ハ無乳をあうるひくあ色
ほうあとりひぺあるくちうあ人ぺうのう
ひくあ色の雑うあ人とゆうす。世ゐうう
乳ちうおとてあるこ形くぺあく人を
これ、ぺ形乳ゐう。形乳ハ色のらのをぺのうう
よ後ちかうひぺとる一きハあくこ老ハりう心い
わくまくあ色のらのひくぺ色をて色の雑ハ
あうあうれこをぺ無乳をほくをすぺ物きハ光
ぺをぺくよりうあ乳あ形あるくぺ物のきハ形
雑も乳をほくぺ。ぺんうるくも乳をうの

四よ面の雑ひの形おきめこそりてのりごとけ
れば、このこゝろとゝ海ハ泡のきめく乳とお
こるらひ形ごゝ山中よこのうく心のまくよ食物の
そゝらひ形ごゝてこまとおきめこゝ海のしぶくと
ひとも面答ハなるうろう　人よ海ごゝ海
るゝ雑ようのき者と海ごゝうくよ雑食
形ら雑よ海ごゝ海ごゝ人もゝ我ようん
海ゝる者よまゝゝ海ごゝるまごゝきゝゝ海
ゝ者ゝて海ごゝ海ごゝ海ごゝ

よのれわれこそとうきんとてぞこうてる
ぬることを欲つるまれずすぎもひきりやうにな
わりぬべき事なり尚有ざるれきありさあ
思ひよりわるれ。いかんぞ彼れかたち曰そう
ドてくるれいをすあもれよ欲つき若多し。
ちきりれまる程よ欲のすれき者多し物と
多くつるしそもむきりの心まを欲のつきと云。
まづつる事よ事りのまを若ふまるまきよにるれ
欲ハわるそむきりの心をくるるをきハや
ちくハ者れとめくむべきまるハいかに
すぐれ人ぶるまきるくハあれど十方なし。大

名ハたつくまきりの國をとうしすひ若をとるて
人よそ後まをまぐるひをまを弱く大名のを
つきりて分上のまてるを程ぶ古今きうす。欲
ぬくを大ハすぎくもてるあきを多しぶ分ぬ
あ若れちくてもてしを程若ハすくぶ物づひ
すぐうてしぶまをてるハ物ーとを。又一人の曰共
ぬんきをいを主あるすぎ沒。仏事もりぐくま
すれもそるまもなくわまれしもすぶ分の程
と知るる一白ようて仏もももきこ物なる人
しとりを　於よぐーハるきを人るりぶ於ふぶハ
よかるぬ人とはきーあるあ中よびもんちを

女ばみ給へ人くのかたらひよりもまさる
き人といひし親よりもそうすれもよかりける人
といひつるハひがりすぎたるとの人ぞ
善惡をしるまく。俗ハ人ハ
なれこの人をすり女中ちうもそうぼうに
人のうしのぎうちうをみまひてあらさせ
給とのたひをまうちあやまりすれハ
まく。ちもそうぼうでうの龍の年の春ぞ
花のおとくらちみまうこのたとやうしてその
中よ。柳揺れ色く。海やうにまれる海を
主これ人なるへ。これ人なるへ海をハ

まう男はあきれるくしてあれ
その人城ありことハいひうこ。ぐ強ひ人ハ
わすよ。をのくれほめらるる人をこれ
多がハのうきぬてぐみ。もくみもぐせよ海ら
する女人をなんようきとのうぐうの人ぐ産
女よ一川のあひうりハよりもぐかと
のおとうもせとうや一川のさひりハ姫ら
てきあてもおそうかすみこまりく
も形くてもなるへ。よひきれつうき人
なれまくともるよ。ちもわれもの家
のかきあ國のくもうハ姫ぐてぐうき人と

ほむら人のうもぢにくき人とおもふ事も
のがれぬ　かせ侍とみえぬ。一ツ目
さ鬼りしがひいけるに人の居下ぶうせい
をなやとする事わくるとくきくいへども伊
とやうなるをちらせいみくよりんもと
の主意れ心もちがつ。分ところ世人へ
ともぶてこもりさ事よ用をとうせぶ。ぬ
くふちぶ。ゆりげもなく服もうけちせ
ゆの心ちすうくよりきあもいつく
ぶ公をさけまとうもぶちをせくゆよそ
れも殺とす。伊のまに一のうとてしぶ人のうあ

よ用にくむとハ神もつす。子孫のもちゆ
こへ殺すいまづとへきあれ人く通
そりくとふつまのん殺あり。一ツ宗廟の居下
三色のん殺あり。一ツ宗廟の居二ツ社稷
の居。三ツ宗居。又ものこけいとて宗廟の
居とゆも。親せんぞ殺ゆつる者。今れ
世よ墓代元とゆる老ゆ居ハ老のりくて
もつくてもその主人の家をもれ主ぬ居
ゆ。社稷ハ居とゆる居ハ其国を主ゆ居国
国ちゆれもとゆにハ居国ハ其
ぬゆ殺ゆ姫。老ハ世ゆ殺ぶれも
ゆれ人へぶち世殺ぶれ国我

まわる紙なり。是ハ今の代ハ世もて過き
とりつけ[illegible]。[illegible]ハ義とも
ゆくゆく[illegible]。[illegible]ハ義とも
く[illegible]。今の世ハ
まうり[illegible]。[illegible]
のハ[illegible]。義とも
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

半ばにおよぶまでん。宰相人まい宿もつとねもぐらのゆゆ人もつのうときくぐりおそうおそう宰人もみかぶのうちよりちよつのうしへうよいうあさまあのうう人の。果うおと作うれも。
いうさうよ姫ゆくも理うあくまやひうんとえ。
一人答曰。ゆめく其方理よあうす。浦こつの姫
人ふうさうし流されもつ姫ゆへよつきあき
人の宰人ゆ。つうれきすてもつ姫
りあうん。首も後うしよ殿の紂として悪王
うう其浦下よ箕子として賢人あうまう志
い悪王されど。二家上上へ天下

よ伊の猛しき王悪つのうとも。二家王にとは
半ばあうまう。彩君のかよ王くりうあうと
きううてかくせいりんよりう。彩よ周の
武王殿の紂とうちほうろうあひ浦ひ箕子を
人首と世よ王て用のう家思ひ浦へとう。浦祢
つうあくひ王ととはまうきとりひうるとき
とうひ浦ひうくせんとゆすよう猛ん
よきう浦下とすてあきて。紂王とあ代あく
りうたうひあうんとすれも常くのせいもん
屋うりかくうかくうけうくも天下のまうと
して世とうと志あんしう浦ひうようくひ志を

すてゝ世くきよのうすとして朝鮮國の王み
ゆきゝ宰人のあひたちこひてはこいめて
ありて洪範とゝの書をはこゝ弱て洪範や
いはゝ天下の面風寒暑皆天下ゝ人の心を
ゆるとゝ書をとゝるゝゝ物のなかなり
天下のふうそく天氣のあらさまをとゝて帝
王のれんぱをとゝ弱ゝ書をゝ中ゝ
見ゝて分析ゝてゝきあくゝも味方ゝくも
あれ。誠着をすてゝ世くゝ面ゝ。洪朝みゝ。我
然みもゝ。ゝゝれゝ誠ゝいすくゝ。ゝゝき
着ハかゝきゝ書ゝ宰人ゝ世ゝゝゝ

ゝてもめぐたゝゝもんみゝ。ゝきハゝゝ
てゝゝびき。誠ハゝきよゝゝゝゝゝひゝれハ
ゝ人よのそむ人ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひゝ心ゝゝ世ゝ宰ゝれゝ。今ゝゝ代よこ
そゝゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝ宰人を
ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ワの事わゝしきもの天乃と云人も貴賤
ノの道の山よりノ道の人は家くよりあ道ノ仏やう
なる様天乃と云と云ふ人まれなり。まれ
人ノ主ノ目まのまゝ好ノそしゆ人者曰天乃
と云ふ一人さ道りくノ道といみえしぜい
よみちくてゆんくノ天乃ふとみえたりさ
して浦くよノ道といはゞこめゞてまりノ人の
子あるん者ハ親と一ニ道とさむ親のうち
とりてく事云する時ハ重恵を天乃と云如き
ものと天乃と云是天乃のすゝとゝ孫なる
者よそもけし則天乃よそむくしてあるノ

しゆ者と云すして天乃と云人ハ死よりあり
て人のうつりとさくて福とあるノ浦ノ
わ見すあと思ハ少人よ。洗米をそるへてこし
餅なと無ハ多くの色くのそ者ノと云人
多ハ。あるひ天乃よるまとそもゆるけのね
よめて餅のう事ハ者くそくよ者ハ
きまくわんや人ノ浦き者ハそれそ
あらハまもます。ゝ者ハんや仏やまくく
天乃と云ひく人ハ浦りく人ノあり
すゝく乃理とハて天乃と云又曰云ふ
も天のめくとノ事も天ものと云事

ものあり。答曰。天地の理を
うしなひてこそいとうねびのこころの程の善悪も
さとりなるよのことわりなれば。其子細は。水は心なき
物なれども。其の元程なる所よりして。ひきくき
所へはゆく物なれば。水は心なきくひきくき所へ流
れんと思へばくいなくひきくよりひきくよりの理
の命よりして。水はくひきくき所へと。
常に天より人の所へうなり。常にあるべきなり
なれども。悪しきものの。のこりてうれもぬい
天地の心なれば。水のひきくきもの。
流れもぬ。水は心なきものなれども。

形なくして。ものこそ。のこりて。
常なり。天のめぐみと。
の善悪。人は心あり。
くいあるべきも。
てうれなる所。
なる理なり。
ようなる。
ようきことのたるべと思ふ。
かるべのいきの。
く心なもんは。
なりるべ。
ら程と人。

理なくして。
人は。
形なる。
善よりは。
人のよるべ。
人のよ。
ひきくき。
人のよ。
人なるべ。
人を。
ものさ

まうきゆゑにまうひあるもまたなり。てゐ海さ
あるさうなるもまたいつまでもいやりうれりともくろ
ねの海うなるかはすまうへ。物又地のかたかた
よとしてて天皇の書とのろ八周易のくす
なり。易八六十二卦あり。卦ハ爻三つ
三三くのおとりしぶ六ずちぶかーよまろう人
も下まりうふ書めて上とり二書めかわて大人と
ふるりぶちれ上ぶこて意といりへきよ二書
めを考とりふ心八てとり圃家の意のもも我
一人どちらまとて過八ひ分別よりも位りとぶとう
けしも業能めり。彖りとりきやうあれも

必天ろりてもむきぶつき中ゆまうるや
りふ中を考せくぶちうへのちやう土をも。
元龍の物とまりけきゆなり元龍とふ
八天へ上りうる龍りぶ。龍八もやわるへ
きかなきゆへよりぶ為ゆまりぶつぶり
すぎうぶくゆをあ海とりて大人海
人の中ゆ彖りうへりと思ひ彖りい
えんぶ海きゆをとひぶりうりまぶ海と
きりあゆれもぶりすくやうこりてりとふ
ゆりるとりふゆりぶ聖人も五更三
光とて老人多りしやを御通とりあきうや

まひ給へ。これ天乃と申さんじ給へ少へまり。
志ろれらも又天下の志ゑ成れら人よりの人とも。
ゆ世すきく所きにくく、ふまつまじきうとく霊
すり人まそれい志よらやまりしたへあり
てと所とい志よりす。禄すくきしてよ
ろ所まど所くまいなすきゆへよ志の上よりて
も元詩の物すへくく志ろ人成ゑまく
成へくるを天乃よりもむくと志へ成へ人
の心和なるへ
天ゑくこのこうまいなくして版一のられい豆。
す為年所くしてのち。志れ者こうりそゑ

しゑ思人年所くして版ゆもいさる年所
これゑ中四のゆとり者り